

微生物資材を利用したトウガラシ斑点病抑制技術

農林センター 環境部

要旨

野菜類うどんこ病に登録のあるバチルス・ズブチルス剤（バチルス剤）を用いたトウガラシ斑点病抑制について検討した結果、稲ワラ資材を併用により、トウガラシ斑点病の発病を抑制でき、散布回数を1/3程度に軽減できる。

成果の概要

トウガラシ斑点病の発病前から稲ワラマルチを敷設し、バチルス剤を20日毎に散布することで、抑制効果を認め、バチルス剤単用の7日毎散布に比しても同等の抑制効果を認めた（表1）。

稲ワラマルチを敷設し、2日毎に上面灌水を繰り返すことで、降雨時の跳ね上がり効果を検証した。水滴とともに跳ね上がるバチルス菌により、下葉からのトウガラシ斑点病発病の実用的な抑制効果を認めた（表2）。

表1 トウガラシ斑点病に対する稲ワラ資材併用の防除効果(2008)

区	反復	調査葉数	発病葉率(%)	発病度	防除価
稲ワラ資材併用 ¹⁾	平均 ³⁾	130	22.3	7.8	57.8
バチルス剤 ²⁾	平均	130	13.1	7.4	59.9
無処理	平均	130	50.0	18.4	

1)稲ワラマルチを敷設し、バチルス剤を20日毎に散布。

2)バチルス剤単用、7日毎の散布。

3)3反復の平均。

表2 トウガラシ斑点病に対する稲ワラ資材併用の防除効果(2009)

区	反復	調査葉数	発病葉率(%)	発病度	防除価
稲ワラ資材併用 ¹⁾	平均 ²⁾	45	20.0	5.9	66.8
無処理	平均	45	48.9	17.8	

1)稲ワラマルチを敷設し、バチルス剤を20日毎に散布。2日毎に上面かん水。

2)3反復の平均。

(問合せ先：Tel.0771-22-6494)